

医療提供体制の充実を図る

世直しに「改革」は必要ですが結果としてそこに暮らす人々を幸せにすることが出来なければ意味がありません。これまで「なんでも競争に任せればうまくいく。米国の要求ばかりを鵜呑みにする」という弱者切捨て型の改革に、私は反対してきました。皆で仲良く助け合う「和の精神」こそが日本のこころであり、日本人らしい生き方です。「安全・安心、ぬくもり・愛情」を感じられる国づくりを目指して社会保障や教育の充実に力を注ぎたいと思います。

日本の医療は少ない費用と少ない人員で世界最高といえる健康状態を達成してきましたが、一方で医療の崩壊が起こっているとも言われています。頻発する医療ミスや訴訟問題は医師の過重労働が大きな原因であり、特に産婦人科医、小児科医などが深刻であります。

また、奈良県は人口当たり産婦人科医数47都道府県のなかで42番目、看護師さんは40番目であり、医師不足、大都会への医師の偏在、看護師不足なども解決しなければならない課題であります。

国民皆保険制度の維持を前提に国民の負担と給付のあり方をどうするのが最大の政治課題だと考えております。「医療費が毎年1兆円増える」と騒いでいますが、パチンコ産業の売り上げが年間40兆円ということを考え、また、先進国の中でGDPに占める医療費の割合をみると、日本は少ない費用で世界一の長寿国となっていることなどをもっと評価されてしかるべきであります。わたしは、もう一度国政の場に復帰させていただいて、国民の皆様の声に耳傾けながら医療体制の充実に努力してまいります。